

45 年間の技術・行政生活をへて——稲浦 鹿蔵



5月29日の総会において、土木学会の功績賞を授与され、無上の光栄に存じている。私は昭和27年度において会長をやったけれども、当時は終戦後まもない複雑な世相の中で功績らしい仕事は何もできず、内心忸怩たるものがあり、まことに恐縮しているしだいである。

私は大正13年に京大土木工学科を卒業し、ただちに内務省に採用され神戸土木出張所に勤務を命ぜられて以来、12年間神戸港の建設に従事し、港湾技術者として基礎を造り上げることができた。何たる幸福者であるか。次いで昭和10年8月、大阪府河港課長として転任を命ぜられ、大阪府における河川砂防港湾事業を担当するとともに、堺港の修築工事に従事した。

昭和17年1月、青島埠頭株式会社の常務取締役として終戦に至るまで、約4年間青島港の改良事業に従事した。

20年12月帰国し、翌21年12月、兵庫県土木部長に補せられて、兵庫県における土木事業を担当した。次いで24年9月建設技監に、さらに27年7月建設事務次官に命ぜられ、技監3年、事務次官3年3か月、建設省で6年余の歳月を送った。省みるに、30年12月辞職するまで約32年間の官界生活を無事に、しかも愉快地にその職責を果たし得たことは本当に幸福であった。次いで31年7月と37年7月に参議院議員選挙に全国区から立候補し、前後12年間、議員として建設行政にたざさわってきた。

ここにおいて約45年間、一貫して建設技術者として土木行政を体験をもって行なってきた。このときにあたって、土木界に最高の権威と伝統を持つ土木学会から功績賞を頂くとは何たる果報者であるか、われながら感激しているしだいである。

●私の履歴● 明治27年10月19日、三重県に生まれる。大正13年3月京都帝国大学土木工学科卒業、同4月内務省に奉職、大阪府、青島埠頭(株)、兵庫県をへて昭和24年建設省技監、27年建設省事務次官となり30年退官、31年から43年6月まで参議院議員となり建設委員として活躍、現在稲浦事務所長。41年11月勲2等瑞宝章を受く。
この間、日本学術会議会員、土木学会会長、多くの各種協会の役員等をつとめる。77歳、現住所：目黒区中目黒1-1-17-707、エビス苑707。電話(03)715-3542番。

土木学会功績賞を受賞して

国鉄とPC業界に生涯を捧げて——田中 茂美

このたび土木学会から功績賞を授与され、無上の光栄と感激しております。私は大正14年からの古い会員であります、学会の仕事にお役に立てたのは、昭和23年副会長になってからのことと思います。戦後の焼野ヶ原で会館を失った学会が、何とか粗末でも会館がほしいということで、国鉄のガード下を借りて仮の会館をつくったのでありますが、わずかの建設費でも当時はなかなか調達に苦労したものであります。昭和34年度には会長をつとめました、その間の思出の一つは、学会誌の英文版(注：Civil Engineering in Japan のこと。1971年までに10冊を刊行)を発行したことであります。日本語が難解のため、日本の土木技術が世界的にPRしにくいのが遺憾というので、年に1回代表論文を翻訳して広く海外に配布しようとの意図のもとに行なわれたのでありますが、東大の高橋裕先生をはじめ、当時の委員の方々には大変なお骨折りを頂いたことを覚えております。

私は学校を出てすぐに鉄道省に入り、昭和27年退官と同時に、藤田亀太郎君と一緒に、プレストレストコンクリートの仕事にたざさわって今日まで満20年になりました。今日ではプレストレストコンクリートは、建設技術に重要な役割をになってきましたが、当時は一般の理解も少なく、プレテンではまず国鉄のまくらぎから始め、昭和28年の夏に、やっと福井県のスパン7mほどの桁橋にポストテンションを入れたのが事業としてのプレストレストコンクリートの歴史の始まりになったようなものであります。

国鉄とPC業界が私の微力を捧げ得た生涯であります、このたびの学会賞は身にあまる光栄と思っております。



●私の履歴● 明治36年3月福岡県に生れる。大正15年3月九州帝国大学土木工学科卒業、同4月鉄道省に奉職主として工務系の仕事に従事、昭和23年運輸省鉄道総局施設局長、24年日本国有鉄道理事技師長、27年極東鋼弦コンクリート振興株式会社社長(現在取締役)、30年興和化成株式会社社長(現在取締役相談役)、33年興和コンクリート株式会社社長、41年PC工業会会長、鉄道施設協会顧問。69歳。現住所：〒153 目黒区上目黒3-12-4。電話(03)713-2067番。